

救急隊の感染防止対策について

令和2年度救急業務のあり方に関する検討において検討

1. 背景

H30

- 近年の国際的な感染症の流行を背景として、消防庁では、「平成30年度救急業務のあり方に関する検討会」において、その時点の最新の医学的知見を踏まえた「救急隊の感染防止対策マニュアル(Ver.1.0)」の作成及び消防機関における感染防止管理体制について検討を行い、とりまとめた結果を全国の消防本部に周知した。

R1

- 令和元年12月、中華人民共和国において新型コロナウイルスが発生し、世界的な流行を認めている。わが国においても、令和2年1月に国内初の感染者が確認されて以降、現在も多数の患者が発生しており、厚生労働省からの協力要請に基づき、各地の消防機関が移送への協力を行っている。

R2

- こうした状況の中、新型コロナウイルス感染症患者への対応の経験を踏まえて、「救急隊の感染防止対策マニュアル(Ver.1.0)」の改訂について、ワーキンググループを設置して検討することとした。

2. 検討内容

最新の医学的知見や、新型コロナウイルス感染症への対応の経験等を踏まえ、マニュアルの改訂を検討する。

<検討事項の例>

- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応について
- ・ N95マスクの使用について
- ・ ゴーグル・フェイスシールドの使用について
- ・ 感染防止衣について(着脱方法等)
- ・ 医療機関への搬送・引継時の注意事項について(医療機関内への感染伝播防止等)
- ・ 消毒方法について
- ・ ワクチン接種・抗体検査について等

3. WGメンバー

感染症の専門家である医療関係者や消防本部職員からなるワーキンググループを設置して、改訂の検討を行う。

- (委員) ※役職は検討会開催時点 ○ワーキンググループ長
- 大澤 良介 (亀田総合病院感染症科部長)
 - 清武 直志 (東京消防庁救急指導課長)
 - 忽那 賢志 (国立国際医療研究センター国際感染症センター国際感染症対策室医長)
 - 進藤 亜子 (都立駒込病院感染症科病棟看護師長)
 - 高橋 府史 (北見地区消防組合消防本部救急企画課長)
 - 瀧澤 栄史東 (新潟市消防局救急課長)
 - 長谷部 宏光 (横浜市消防局救急部救急課担当課長)
 - 間藤 卓 (自治医科大学救急医学教室教授)
 - 森田 正則 (堺市立総合医療センター救命救急センター副センター長)
 - 吉田 眞紀子 (東北大学病院検査部助教)

(オブザーバー)
厚生労働省健康局結核感染症課

4. スケジュール

- 令和2年10月
第1回WG開催
- 令和2年11月
第2回WG開催
- 令和2年12月
改訂版マニュアル発出
全国に周知
- 令和3年2月
救急業務のあり方に関する検討会(第3回)
- 令和3年3月
報告書とりまとめ